

東京都中央区には老舗企業が多く、「中央区老舗企業塾」という組織があります。老舗の教えで最も重要なものは、「理念をつくること」です。

理念とは、ある物事について、こうあるべきだという根本の考えと定義し、経営とは、事業目的を達成するために、継続的・計画的に意思決定を行って実行に移し、事業を管理・遂行することです。「経営理念」と2つの言葉を合わせると難しく考えてしまいがちですが、要は商いを行う上でのこうあるべきだという根本的な考え方となるのです。

創業者が経営に対する想い

第2回

120年続く100年企業コンサルタントが伝える「つぶれない会社」をつくるために100年続く老舗の教え!

連載

理念・ビジョンの重要性

藤間公認会計士税理士事務所 所長

藤間 秋男

を直接語り継げるのは、二代目、三代目まで。四代目は創業者と会ったこともないことが多いです。そこで、創業の想いと経営の指針をつなげるのは、理念であつたり家訓であつたりします。

会社を長く続けていくことが困難な理由として、環境変化への対応力の欠如があります。

100年続く企業を調査していった過程の中で、創業してから変えたもの、変えていないものは何ですかというアンケート調査(帝国データバンク資料館ガイドブック「老舗(温故知新)」)を行いました。その結果、100年続く

半数以上の企業が、経営理念をほとんど変えておらず、生産技術、販売方法、販売エリア、顧客は変わっているとの結果が出ています。

経営理念の次に重要なことは、ビジョンを創ることです。

何故、生産性が高い会社と低い会社があるのでしょうか。それは、給与などの報酬や待遇だけが働く動機付けではないからだと考えられます。

高度経済成長の時、日本は何故あれだけの成長を遂げたのでしょうか。それは、日本全体が復興や豊かな生活を目指して働いたからではないか

と思われる。つまり、生産性の高い労働を生み出している理由のひとつとして、大きなビジョンを持って日本全体で働いたからだと思います。

100年続く強い会社を創るためには、まず、「理念・ビジョンを創ること」から始め、既にある場合は、徹底されているかどうかの視点で見直すことが、この厳しい時代を乗り切る手段ではないかと考えます。

藤間 秋男(とうま あきお)

公認会計士・税理士・中小企業診断士・行政書士。1952年生まれ。慶應義塾大学卒業。82年藤間公認会計士税理士事務所開業。経営改善、財務強化、節税対策、経営計画、相続・事業承継対策などをテーマとした戦略と実践プログラムで好評を博す。現在有資格者40名を含む、総勢140名のTOM Aコンサルタントグループの代表。著書に「法人税節税チェックポイント78」他多数。